

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 84人 国語B 84人

② 算数A 84人 算数B 84人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

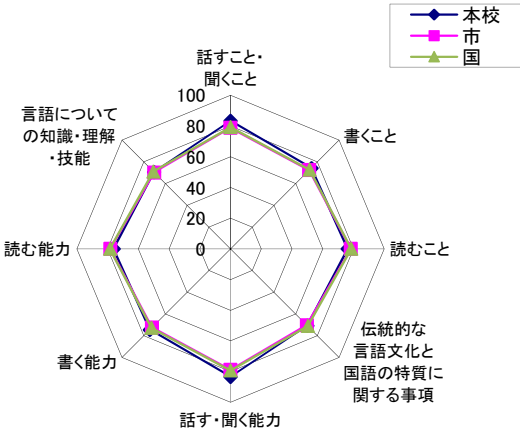
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

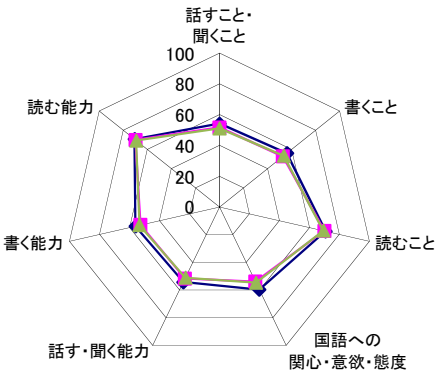
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	83.3	78.8	79.2
	書くこと	74.4	72.4	72.8
	読むこと	76.2	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.7	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	83.3	78.8	79.2
	書く能力	74.4	72.4	72.8
	読む能力	76.2	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	70.7	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	54.2	51.7	51.1
	書くこと	56.0	52.7	53.4
	読むこと	70.7	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	59.6	53.8	54.7
	話す・聞く能力	54.2	51.7	51.1
	書く能力	56.0	52.7	53.4
	読む能力	70.7	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

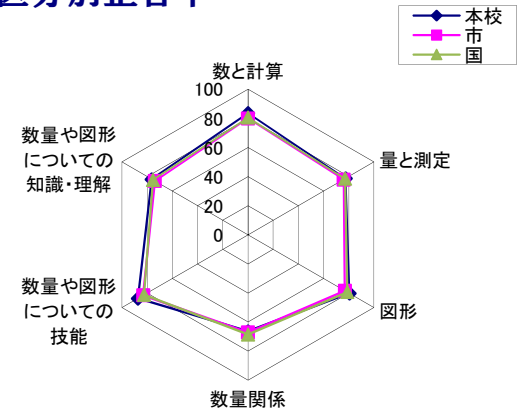
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語Aの平均正答率は83.3%と市の平均正答率よりも4.5ポイント高く、国語Bの平均正答率も54.2%と市の平均正答率よりも2.5ポイント高かった。特に、目的や意図に応じて、収集した情報を関連付けながら話し合う問題の正答率が高かった。 ●話し手の意図を捉えながら聞いたり、話の展開に沿って質問したりすることが苦手な児童が見られる。	・各教科や日常における会話などにおいて、友達や教師の話をも自分の考えとの共通点や相違点を考えながら聞けるよう意識させ、相手の話を注意深く聞いたりさらに知りたいことを質問したりできるように指導していく。
書くこと	○国語Aの平均正答率は74.4%と市の平均正答率よりも2.0ポイント高く、国語Bの平均正答率も56%と市の平均正答率よりも3.3ポイント高かった。 ●図表やグラフを基に、分かったことを的確に表現する問題の正答率が低かった。	・社会科や算数科などに関連付けて、図表やグラフを正しく読み取り、分かりやすく自分の考えが伝わるように書く活動を取り入れていく。
読むこと	○国語Aの平均正答率は76.2%と市の平均正答率よりも2.1ポイント下回ったが、国語Bの平均正答率は70.7%と市の平均正答率よりも0.8ポイント高かった。特に、国語Aでは、図や表を関連付けて読む問題の正答率が高かった。 ●登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉えることが苦手な児童が見られた。	・物語文では、登場人物の気持ちの変化や情景などについて読み取るために、登場人物の行動や会話に着目して読むよう指導していく。 ・共通した登場人物や状況設定などを関連付けながら読めるよう、シリーズの本を読む指導もしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は70.7%と市の平均正答率よりも0.4ポイント上回っているが、国の平均正答率よりは0.4ポイント下回っている。 ●ローマ字の読み書きの問題は、約半数の児童が正しく理解していなかった。	・どの教科においても、習った漢字を使って書いたり、分からない言葉については、辞書を使って調べたりする習慣が身に付くよう指導していく。 ・日常生活で使われているローマ字を読んだり、氏名や簡単な文章などを書いたりする機会を意図的に設けていく。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

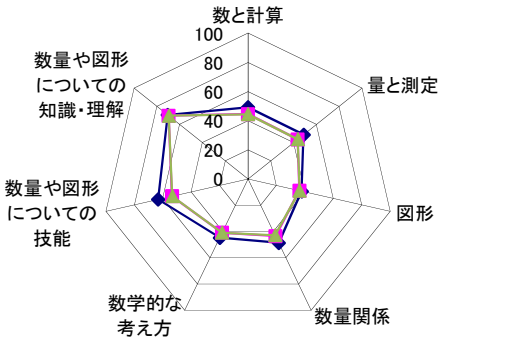
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	83.6	79.9	80.5
	量と測定	77.4	75.9	77.0
	図形	80.4	76.9	78.8
	数量関係	66.3	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	87.4	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	76.4	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	49.2	44.5	44.4
	量と測定	48.7	43.5	43.7
	図形	37.8	36.2	36.3
	数量関係	48.6	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	44.7	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	63.3	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	70.5	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、算数Aでは83.6%で市の平均正答率79.9%より3.7ポイント、算数Bでは49.2%と市の平均正答率44.5%より4.7ポイント高い。 ○四則計算の基礎的な技能が身に付いている児童が多く、どの設問においても市の平均正答率を2～14ポイント近く上回っている。 ●2つの数の大小関係を不等号を使って表す問題の正答率は92.9%と高いが、国の平均正答率96.7%より3.8ポイント下回っている。不等号が表す意味を十分に理解できていない児童がいる。	・基本的な計算問題を解く力はよく身に付いているが、小数・分数の計算になると正答率がやや下がる傾向がある。今後も少人数指導や習熟度別学習の内容を充実させ、類似問題や応用問題に繰り返し取り組ませることで、学力の定着を図っていく。 ・不等号が表す意味については、該当単元だけでなく、数の大小関係を不等号を用いて表現する場を適宜設けて指導したい。
量と測定	○平均正答率は、算数Aでは77.4%と市の平均正答率75.9%より1.5ポイント、算数Bでは48.7%と市の平均正答率43.5%より5.2ポイント高い。 ●三角形の底辺に対応する高さを選ぶ設問では、正答率82.1%と高いが、三角形の高さは三角形の内部のみにあると捉えた誤答が8.3%の児童に見られた。	・作図をする際に、底辺・高さとなる部分を確認させたり、面積を求めるために必要な長さはどこかを考えさせたりするような発問や課題提示の仕方の工夫をして指導していく。
図形	○平均正答率は、算数Aでは80.4%と市の平均正答率76.9%より3.5ポイント、算数Bでは37.8%と市の平均正答率36.2%より1.6ポイント高い。 ●正方形に内接する円の半径について答える設問では、正方形の内部に円をかこうと半径を小さく捉えてしまう誤答が多く見られた。	・提示された条件に合わせて作図をするために必要な図形の性質について、デジタル教材を活用して分かりやすく提示したり、類似問題に取り組ませたりすることを通して確実に理解させていく。
数量関係	○平均正答率は、算数Aでは66.3%と市の平均正答率67.1%より0.8ポイント下回っているが、算数Bでは48.6%と市の平均正答率43.5%より5.1ポイント高い。 ●提示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式を表す設問では、正答率79.8%と相当数の児童が解答できているが、無回答の児童が6%いた。文章を読み取り、立式することを苦手としている児童が若干名いる。	・提示された情報を整理し筋道を立てて考える問題は、苦手意識をもつ児童が多く見られるので、場面を段階的に提示し、十分に理解できるよう指導の工夫をしていく。また、他の問題に比べて無回答の児童が多く見られるので、個別指導の充実を図っていく。

宇都宮市立清原南小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合は(70.3%で、)全国平均を8.1ポイントも上回っており、主体的に自主学習がしっかりと行われている成果が表れている。今後も継続していけるよう家庭と連携して進めていきたい。

○「学級でみんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と回答した児童の割合は(94.1%で、)全国平均を7.8ポイントも上回っており、普段の授業での学び合いや学級活動等での役割分担などから一人一人が責任をもち、達成感を味わいながら学校生活を送っていることが伺える。今後も一人一人を大切にしたい指導を充実させていきたい。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した児童の割合はどちらも(95.3%で、)全国平均を10ポイント以上も上回っており、教師と児童の良好な人間関係が構築されていることが伺われる。今後もお互いの考えを尊重し合いながら学級経営を充実させていきたい。

○「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童の割合は(94.0%で、)全国平均を26.1%も上回っており、地域との関わりが密接であり、また地域も子どもたちのために様々な行事等を実施している成果が表れている。今後も地域、家庭、学校の連携を密にし、さらによりよい関係を深めていきたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答した児童は50%で、ほぼ全国平均と変わりはないが、低い傾向にあるので、まずは、「授業の中で自分の考えをもち、隣の人に伝える」などの活動を意図的に取り入れながら、自信をもたせていきたい。また、「失敗しても大丈夫」「間違っても大丈夫」という安心感の中で授業が行われるよう工夫していきたい。

●「5年生までに受けた授業の中で目標が示されていた」と回答した児童の割合は95%を超えているものの「授業の最後に振り返る活動をよく行っている」と回答した児童の割合は71.4%に留まっている。今後は、職員研修等で振り返り活動について研修を積み、さらに充実した振り返り活動ができるようにしていきたい。